
1. 開会あいさつ



国立国会図書館総務部支部図書館・協力課長
本吉 理彦

皆様こんにちは。総務部支部図書館・協力課の本吉です。今日は東京本館の方から参りました。フォーラムの開催にあたりまして、簡単にご挨拶致します。

まずは日頃から当館の図書館協力業務、その他にご協力頂きまして、大変ありがとうございます。また本日はお忙しい中御参集頂きまして、感謝申し上げます。講演される先生、報告者の皆様方にも御礼申し上げます。

簡単に私の仕事なりを紹介して挨拶にいたします。私は、東京本館で総務部支部図書館・協力課の課長をやっています。この支部図書館・協力課の”支部図書館”の部分ですけれども、国立国会図書館は行政・司法分野にも図書館サービスをするという使命がございます。そのために各府省、最高裁判所に 27 ほど支部図書館というものを設けています。この支部図書館を統括する部分が、”支部図書館”という部分です。後段の”協力”の部分ですが、こちらは図書館協力課と協力し合いながら、図書館協力業務全体を形成しています。支部図書館・協力課の方は、国内外の渉外中心の業務になっています。

例えば都道府県立、政令指定都市立の図書館長をお招きして、一年に一度懇談をすることか、大学図書館長とも同種の会議をしています。あるいは日本図書館協会に常務理事を出しています。これは課というよりも館として出していることとなります。それから国際面では例えば海外の図書館関係者をお呼びして講演会を開催しています。IFLA の常任委員も出していまして、その辺の連絡調整もする、そういった意味で渉外をやっています。

関西館の図書館協力課の方は、総合目録をはじめ、レファレンス協同データベース、それから研修等、カレントアウェアネス、そういったものを通じて、渉外というよりも皆様

方の日頃の業務に直接役立つ基盤を提供する事業を展開しています。全体として国立国会図書館の図書館協力業務を形成しています。

実は私、平成 19 年、20 年と 2 年ほどこちらの図書館協力課の課長もやっておりました。今日の議題である総合目録ネットワークは、今年 1 月に国立国会図書館サーチに統合されて、新しいシステムになったわけですが、ちょうど 20 年に、国立国会図書館全体がシステムの見直しをすることになり、その一環で総合目録ネットワーク事業についての今後のあり方について最初の報告書を取りまとめました。ただ、その最初の報告書を書いた時と、今の完成形はやや違うものでして、システムの、予算的な要因、制約がありこのような形になりました。システムは変わったとしても、事業の意義、重要性は失われることなく、新しい時代で新しい役割、意義が出て参ります。

今日の議題からやや外れるかもしれませんが、国立国会図書館では過去 3 年程度、大規模デジタルということで館の所蔵資料のデジタル化を推進してきました。今後は、現物の資料とデジタル化された資料を併せて、図書館サービスを進めていくこととなります。そのように考えると、ILL もデジタル化資料と一体となって考えていかななくてはならない局面に立っていると思います。そういったことも含めまして、いろいろな転機になっていると思いますので、今日のフォーラムでは我々に対する評価、ご批判も含めて、活発なご意見を頂ければと思います。それではどうぞよろしくお願いいたします。